

令和5年度 学校経営計画書

学校番号	24	学校名	静岡県立伊豆の国特別支援学校	校長名	松本 仁美
------	----	-----	----------------	-----	-------

1 目指す学校像

(1) 学校教育目標

良さが輝き 未来をひらく

一人一人が確かな学びを積み重ね、仲間や地域とつながりながら、自分の良さを生きる力へと輝かせ、夢や希望をもち、自ら未来をひらく（「開く」「拓く」「啓く」）人を目指す。

(2) 目標具現化の柱

- ア 【安全・安心】 命と健康を守り、人権を尊重し、一人一人を大切にする学校
- イ 【専門性】 確かな力を積み上げ、一人一人の良さを引き出す学校
- ウ 【連携】 保護者や地域と連携し、児童生徒の社会参加を目指す学校
- エ 【チーム学校】 教職員が主体的に学校づくりに参画する学校

2 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
安全・安心①	児童生徒が安全に安心して生活できる学習環境の整備や危機管理体制を構築する。	緊急時や災害時の行動の整理と訓練を実施する。 校外外の事例をもとに、迅速に反省や検証を行い、マニュアルの確認や見直しを行う。	緊急時や災害時の職員の役割や動きを理解し、適切に対応できた。	防災安全課 保健給食課 生徒指導課 体育課
			児童生徒が自分で身を守るための安全教育を実施した。	防災安全課 生徒指導課 体育課
		安全対策・事故の未然防止のためにヒヤリハット事例の迅速な報告と安全点検の実施。	校舎内や地域の危険場所の確認や改善を行うKY（危険予知）ミーティングを、各学期初めに全職員縦割りで行った。	防災安全課 生徒指導課 各学部
			安全点検を実施後の対応を100%実施した。	防災安全課
安全・安心②	児童生徒一人一人の人権が尊重され、いきいきと活躍できる教育活動を実施する。	人権研修及び人権感覚チェックの定期的な実施により、教職員の人権意識の向上を図り、児童生徒一人一人の人権を大切にしたい指導を行う。	学部会でミニ人権講座を実施した。	各学部 生徒指導課
			3分間セルフチェックで毎月、人権感覚チェックを実施した。	生徒指導課
		研修会や専門家の指導助言を共有し、児童生徒の願い、思い、気持ちを受け止め寄り添う支援をする。	児童生徒一人一人に合ったコミュニケーション方法を学年や学部で共有した。専門家による指導助言を年2回、夏季研修会等、研修の場の充実に努めた。	自立活動課
専門性①	新学習指導要領に沿った12年間のつながりのある教育課程を実施する。	小学部6年間、中学部3年間、高等部3年間が見通せるカリキュラムマネジメントシートとシラバスを基に根拠ある指導の実践を行い、12年間のつながりを検証する。	実践の成果を共有し、次年度に向けてカリキュラムマネジメントシートとシラバスの見直し改善を12年間のつながりの視点で行い、教員間で共通理解をした。	教務課 各学部 カリキュラムマネジメント委員会
			シラバスの達成に必要な教材教具を整えた。	事務部

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
専門性 ②	児童生徒の適切な実態把握と課題設定により、確かな学びを積み上げる国語・算数（数学）の授業実践力の向上を図る。	ラーニングマップを活用して、個々の学習状況を把握し、適切な指導目標と指導内容を設定した授業実践を積み重ねる。 学習評価に基づく授業改善の充実に向けた授業研究を1年間継続する。	ラーニングマップによる児童生徒の学習状況の評価を年間3回行い、国語・算数・数学の授業で、児童生徒が何を学んだのかを明らかにした。	研修課 各学部
専門性 ③	将来の生活を豊かにするためのキャリア教育のあり方を考える。	将来の豊かな生活を見据え、なぎのはプランを基に小学部・中学部・高等部段階で大切にすることを共通理解する。	全職員が、なぎのはプランを共有し、キャリアの視点で見直す事ができた。 教職員向け進路研修や高等部見学を実施した。	企画会 各学部 進路指導課
連携 ①	児童生徒の良さと本人・保護者の将来の願う姿を共有する個別の教育支援計画、個別の指導計画（以下、伊豆の国書式個別）に基づき、保護者・関係機関との連携を図る。	伊豆の国書式個別の意義を保護者と教員・教員間で再確認する。 長所活用型及び自立活動の視点に立った伊豆の国書式個別を活用した面談や懇談会を行い、家庭・学校・地域の役割を明確にする。	児童生徒の良さを学校と保護者で共有し、伸ばすことができた。 伊豆の国書式個別を保護者や関係機関との連携に活用した。	各学部 地域連携課 自立活動課
連携 ②	積極的に地域と関わり、学校や児童生徒について、地域への理解啓発を図る。	交流する場の設定を行い、地域での交流や学習を充実させる。児童生徒と地域双方の目的や効果を検証する。	地域資源を活用した学習を目的を意識して計画・実施した。	各学部 文化芸術課 地域連携課
		地域への理解啓発のため、児童生徒の日頃の学習活動や作品、地域学習の様子を積極的に情報発信する。	ホームページ、学校だより、児童生徒の作品等で、情報発信をした。	情報教育課 地域連携課 文化芸術課 各学部
連携 ③	外部機関や有識者と連携し、社会の変化に合わせた学校の担う役割について考える。	外部からの助言や情報をもとに、社会の変化に応じた学校の役割やキャリア教育のあり方について、話題にしたり考えたりする。	学校運営協議会、就業促進協議会等を開催し、得られた助言や情報を、会議等で共有した。	進路指導課 企画会 各学部
チーム 学校 ①	教職員一人一人がやりがいをもち学校づくりへ参画する。	業務内容や役割分担、学校運営について、提案の機会を設け提案を吸い上げ検討する。	学年部会・学部会・分掌部会・主任会等で提案したり、提案について話し合ったりすることができた。	企画会 各学部 各分掌
		教職員一人一人が学び、考え、自分自身の良さや強みを生かし、役割ややりがいを見つける。	管理職との面談等で、自身が学校づくりで力を発揮したいことや、自分の得意分野を伝えることができた。	企画会